

.....

一人一人の笑顔を大切に

みんなつながって生きていきたい

.....



社会福祉法人 十愛療育会 概要

.....

【 法人概要 】

法人名称 : 社会福祉法人 十愛療育会
フリガナ : シャカイクシホウジン ジュウアイリョウイクカイ
開設 : 1987 年（昭和 62 年）3 月
関連施設 : 横浜療育医療センター
横浜医療福祉センター港南
地域療育センターあおば
たちほどがや
保育室ひかり
病児保育室あさひ
ヘルパーステーションまいはーと
訪問看護ステーションえーる

【 横浜療育医療センター 施設概要 】

施設名称 : 横浜療育医療センター
フリガナ : ヨコハマリョウイクイリョウセンター
院長 : 甲斐 純夫（カイ スミオ / 1982 年医師免許取得 / 小児科）
所在地 : 〒241-0014 神奈川県横浜市旭区市沢町 557-2
連絡先 : TEL : 045-352-6551 / FAX : 045-352-9241
URL : <http://www.jyuuairyouikukai.or.jp/yokoryo/home.html>
許可病床数 : 105 床（一般）
診療科 : 神経小児科、神経内科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、整形外科、障害歯科
救急指定 : -
看護基準 : 10 : 1 2 交代制
保育施設 : 有 ※敷地内に横浜市の小規模保育事業実施施設あり（病児保育あり）



交通アクセス

【 横浜療育医療センター 】

住所 : 神奈川県横浜市旭区市沢町 557-2

最寄り駅 : 相鉄線 和田町駅から バス 約 15 分
 相鉄線 二俣川駅 南口から バス 約 30 分
 JR 東戸塚駅 西口から バス 約 10 分



センター長対談： 根津 先生 × 甲斐 先生

.....



横浜医療福祉センター港南
センター長 根津 敦夫 先生



横浜療育医療センター
センター長 甲斐 純夫 先生

院長として活躍されているおふたりの先生に、十愛療育会の魅力や求める医師像について伺いました。

大学病院から十愛療育会に転職したきっかけ。

根津先生

大学病院の小児科で、脳神経に関係した病気を扱う分野を専門として、色々な原因がありそれぞれのハンディキャップを持つお子さんを診療していました。脳障害は完治・治癒して健康な身体にすることが難しく、小児科が担当する年齢を超えて診療を継続する必要があったり、あるいは成人科へのトランジションが上手く進まないことも多くあります。

生涯一貫して小児期から成人期まで脳障害にかんするケア・診療を継続する必要性を感じ、それが可能な場がこの十愛療育会だと考え、転職しました。前任の施設長がかつての上司で、後任として誘っていただいたことも、ひとつのきっかけです。

大学に残るという選択肢も考えましたが、小児の障害について生涯一貫して診療を継続することは難しく、トランジションの問題も解消できませんから、それを解決するために、当施設を小児から成人まで一貫して診療できるように充実させればよい。そういう思惑もあって転職を決めました。

甲斐先生

私も大学病院の小児科で、血液を専門にしていました。とある病院で根津先生と出会い、その地域の障害者施設から患者さんの紹介を受けるようになったことをきっかけに、障害を持つお子さんを診療するようになりました。それからも市中病院で救急を含む小児総合診療医として勤務し、定年近くなって今後の身の振り方を考えていたところ、根津先生からこの施設に誘われました。

2つ目の医療センターが新しく創設されるにあたり、院長候補として来て欲しいというお話でした。一緒に働いていた時の経験から、障害児医療にも関心があり、福祉や生活の支援も興味深いと考えていたので、思い切って転職を決めました。今は在宅医療などの課題もあり、私にとって全く新しい道でしたので、それも興味を惹かれるポイントでした。最後に勤務していた病院で定年を5年延長することもできましたが、同年代の外科医のように手術ができるわけでもありません。これから小児科医としてできることは何かと考えて、当施設を選びました。

じっくりと患者さん・家族に向き合える時間。

根津先生

30～40代の先生に当施設をお勧めできるポイントは、病院の小児科では得られない技能や考え方を学ぶには有用だという点です。小児科のいろいろな分野を一通り経験された後に障害児医療に興味をもち、そういった方へのケアには医療だけではなく福祉も必要だということに気付かれて、両方の面でご本人・ご家族をサポートしたいと思われる先生にとっては大変良い環境です。

甲斐先生

30～40代はバリバリ医療をやりたい時期ですから、生活を支えるというよりも病気を治したいという気持ちが強いかもしれません。しかし、通常の病院では急性期疾患がほとんどで患者さんがその都度変わり、一日の患者数も多く、多忙な診療の中では時間をかけて患者さん・ご家族と付き合うことは難しいです。

当施設では十分な診療時間を取ることができるので、親身になって患者さん・ご家族と付き合うことができます。時間をかけて丁寧に診療することができる、これがメリットだと思います。私は急性期医療に携わっていた頃から発達障害や精神的な問題を抱えるお子さんをたくさん診ていましたが、今はより時間をかけて人と関わり、人の役に立っていると強く感じています。

根津先生

大学にいた時は休日が月に1～2回くらいで、やらなければいけない事がたくさんありました。急性期医療は神経を使いますし、たまに休日が取れても部下からの問い合わせが入ります。若い先生であれば1年365日なにかしらのデューティーを持って仕事をする立場でしょう。当施設は、基本的に入所されている方の病状は安定しています。容体が急変して、急な治療を要する場面はそうありません。急性期病院を卒業し、第二のライフワーク、ライフステージを考えておられる先生も、ぜひ来ていただきたいです。

・・

障害児医療で大切なこと。

根津先生

リハビリスタッフや看護師・介護職員が多く、色々なボランティアの方にも来ていただいているので、多彩な方とチームを組んで連携して仕事をする必要があります。しっかりとコミュニケーションを取り、チームワークの意識を持って働ける先生が一番望ましいと思っています。

そして、障害児医療では些細な変化でご家族が一喜一憂されますので、そういった感性を持ち、現状に満足せず少しでも良い方向に改善したいという意識を持てる先生が、二番目に重要です。

甲斐先生

患者さんというよりも利用者さんとして過ごされているので、その生活を支えるという意識の強い先生に来ていただきたいです。医療・福祉・保健・介護といったパートを支えることに喜びを感じていただけると良いです。

根津先生のように小児神経を専門にされている先生、小児だけではなく 60～70 歳の患者さんもいますから、内科の総合診療のようにトータルに診るという意識のある先生も、当施設にフィットすると思います。60 歳で定年を迎えた先生でも、当施設の定年は 70 歳ですから 10 年で出来ることがたくさんあります。

根津先生

基本子どもの病気は治るでしょう。一日にたくさんの子を診て、治って帰っていくことが通常の小児科診療ですが、実際に小児科を長く続けていると、治らない病気があり、長く付き合わなければいけない病気の子が何%かいます。

たとえばてんかんという病気ひとつとっても、子供のてんかんは比較的治りやすいとは言われているものの、それでも 15% くらいは難治で、ハンディキャップや知能障害が出て成人まで持ち越すことがあります。私たち小児科医が 20 代・30 代・40 代と継続して診ていく、その長い時間で生まれる関係性というのは急性期医療では得られません。

いままで新生児を専門にされていた先生や、甲斐先生のように急性期を診ていたという先生でも、視点が障害児医療といった分野に移れば、当施設にも興味をもっていただけるのではないのでしょうか。

プライベートも充実できる働き方。

根津先生

当センターの医師の1日の流れとしては、入院の患者さん・長期入所の患者さん・レスパイトの短期入所の患者さんがいて、それらの診療を行います。入院病床では二次医療、たとえば肺炎の治療などを行っています。長期入所の方は大体15名を担当し、短期入所される方は週に数名います。

そのほかには、クリニックでの専門外来や、通所という養護学校を卒業された後に生活介護施設に通われている方々への健康管理などもあります。また、色々な職種と連携して診療しますので、ミーティングやカンファレンスが週に数回あります。

休日の診療は基本的にオンコールあるいは当番の日当直医師が対応します。当直・オンコール当番日ではない限り、休日は好きなように過ごせます。長期休暇も他施設に比べ取得しやすいです。

甲斐先生

夏季休暇は5日間、年末年始は基本的にお休みです。

非常勤の当直医が対応してくれるので、オンコールの呼び出しは年に数回くらいで、大きな負担にはなりません。当直は月2回程度で、当番日以外はフリーの時間が確保できるため、自分の趣味に時間を使うこともできます。ただ、主治医となっている患者さんの体調が悪い時は、休日でも様子を見に来る先生が多いです。

これからの施設を創る。

甲斐先生

障害やハンディキャップを持った方を診ていく施設ですので、そういった方を支えることに生きがいを感じられる先生に来ていただきたいです。

両施設ともに新しく生まれ変わりましたので、これから一緒に施設・文化を創り、将来を担っていただけるような先生をお待ちしています。

根津先生

両施設ともそれぞれチームワークを組み、医師や他職種が連携を取って診療を行い、一人で抱え込むことが無い体制です。そして、急性期病院とは異なり、時間をかけてゆっくり丁寧に診療できる環境があります。ぜひ来てください。